

U.S. Indicators

マクロ経済指標レポート

米国 原油・ガソリン価格の上昇により消費者マインド悪化 (05年8月ミシガン大消費者センチメント)

発表日：05年8月12日 (金)

～8月の個人消費を抑制する要因に～

(No. UI-085)

第一生命経済研究所 経済調査部

桂畑 誠治(かつらはた せいじ)

(03-5221-5001 : sei.ji@dlri.dai-ichi-life.co.jp)

消費者信頼感 (Consumer Confidence)

	消費者信頼感指数		消費者信頼感 (Consumer Confidence)						ミシガン大学消費マインド			
	期待指数	現状指数	雇用判断		半年後の景況感		半年以内の購入計画		期待	現状		
			充分	困難	良くなる	悪くなる	自動車	住宅				
04/08	98.7	97.3	100.7	18.4	26.0	20.2	8.8	6.5	3.9	95.9	88.2	107.9
04/09	96.7	97.7	95.3	16.6	28.0	21.6	9.4	6.3	3.9	94.2	88.0	103.7
04/10	92.9	92.2	94.0	17.4	27.9	20.7	10.5	7.6	3.6	91.7	83.8	104.0
04/11	92.6	90.2	96.3	17.1	28.0	20.3	11.4	4.6	2.6	92.8	85.2	104.7
04/12	102.7	100.7	105.7	19.4	26.4	22.4	7.7	6.6	3.5	97.1	90.9	106.7
05/01	105.1	100.4	112.1	21.0	24.3	22.0	7.8	7.2	3.5	95.5	85.7	110.9
05/02	104.4	96.1	116.8	21.1	22.4	17.9	7.8	7.2	4.1	94.1	84.4	109.2
05/03	103.0	93.7	117.0	21.8	23.8	19.3	8.2	5.7	3.8	92.6	82.8	108.0
05/04	97.5	86.7	113.8	20.4	22.9	17.7	9.9	5.8	4.1	87.7	77.0	104.4
05/05	103.1	93.4	117.8	22.9	24.1	19.0	9.5	7.8	3.5	86.9	75.3	104.9
05/06	106.2	96.4	120.8	22.5	22.5	19.5	9.0	6.6	3.6	96.0	85.0	113.2
05/07	103.2	93.0	118.5	22.5	23.8	17.6	9.6	7.2	3.6	96.5	85.5	113.5
05/08										92.7	81.3	110.4

出所) The Conference Board, University of Michigan

注) 雇用判断、半年後の景況感、購入計画の単位は%で、全体に占める割合を指す。

市場予想を上回る

3.8ポイントの低下

05年8月のミシガン大学消費者センチメント指数(速報値)は、92.7と前月から3.8ポイント低下し、市場予想の96.3を大幅に下回った。雇用・所得の拡大が続いているものの、ガソリン等エネルギー価格の上昇等によって3ヵ月ぶりの悪化となった。マインドの下落幅が大きいことから、8月の個人消費が鈍化する可能性がある。

内訳は、現状指数が▲3.1ポイントの低下、期待指数が▲4.2ポイントの低下となった。現状・期待が変化した要因をみると、現状判断は雇用・所得の拡大が持続しているもののガソリン価格が上昇していることを背景に悪化したと考えられる。一方、期待指数は株価や景気が堅調に推移しているが、原油価格の急激な上昇によって景気の先行きに対する楽観的な見方が後退したと考えられる。

8月上旬の各種消費

者マインド調査はミシガンを除けば改善

8月の他の消費者マインド調査をみると、TIPP景気楽観指数(8月1日～8月5日調査)が48.6から50.9に上昇、ABC/ワットソプス消費者信頼感指数は7月の平均の▲9.5から8月第1週に▲8.8と小幅改善した。このように、ミシガン大学以外の消費者マインド調査は軒並み改善しており、一本調子のマインドの悪化という状況ではない。

一方、マインド調査期間と同時期(8月第一週)の消費動向を示す統計をみると、週間小売売上高は気温の上昇に伴う秋物衣料等の不振によって、前週比で減少した。ただし、前月平均値対比では小幅拡大しており、足下の個人消費は底堅く推移している。

原油が最高値を更新するなかでも個人消費が大幅に減速するリスクは小さい

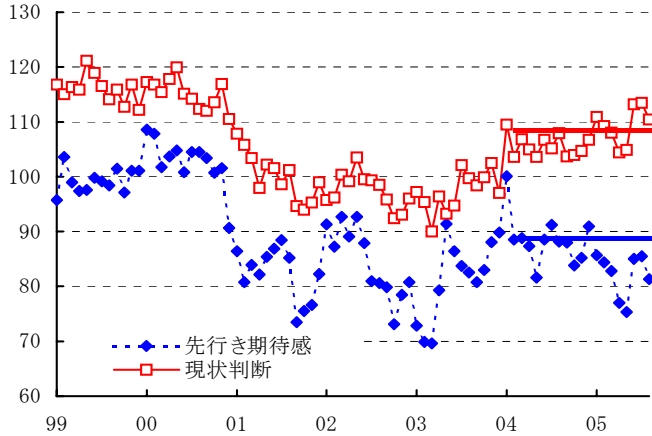
消費者マインドを取巻く環境をみると、足下で原油価格が1バレル=65ドル前後で推移し、ガソリン価格も上昇している。今後も世界的な景気拡大ペースの加速に伴う供給不足懸念を背景にエネルギー価格の上昇が持続する可能性が高い。エネルギー価格の上昇が続けば、実際に景気に与える影響が小さくとも景気の先行きに対する不安感が強まり今後もマインドを悪化させる可能性がある。

しかし、マインドに与える影響の大きい雇用情勢を考えると、雇用に先行する景気は2003年4～6月期から2005年7～9月期にかけて潜在成長率を上回るペースで拡大しているとみられる。このような環境のもと、マンパワー社による新規雇用計画調査のなかの7～9月期の雇用計画を示す指数(季節調整済み)が前期と変わらず高い水準を維持するなど、企業の採用意欲は強い状態にあり、雇用の拡大が続くと予想される。加えて、雇用環境の改善による賃金上昇や持続的な福利厚生費の増加が見込まれることから、今後も可処分所得は増加傾向を辿る可能性が高い。以上のことから、消費者マインドが急激に悪化し個人消費の失速に繋がるリスクは小さい。

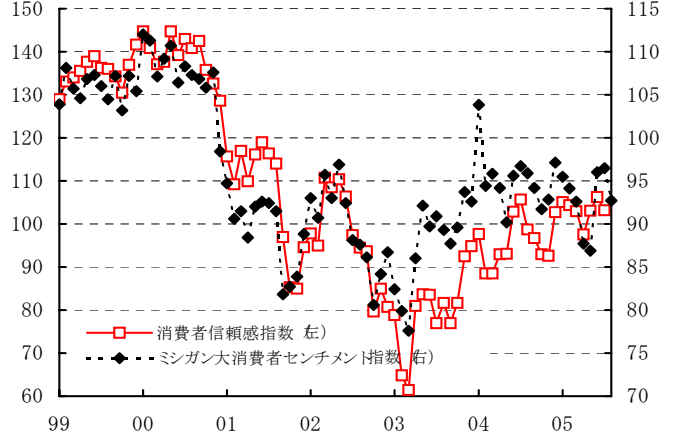
さらに、住宅販売では住宅販売に約1ヵ月先行する住宅購入ローン申請件数は、モーゲージ金利が低下していること、政策金利の引き上げ後も銀行が貸出基準を引き締めていないため資金調達が容易な状況にあることから、4、5、6月と3ヵ月連続で過去最高を更新し、7、8月も高水準を維持している。このため7～9月期の住宅販売は過去最高水準を更新すると予想され、関連消費や住宅を担保にした借入に繋がり個人消費を下支えしよう。

以上のように、家計部門は一時的にエネルギー価格上昇の影響を受けるものの、基本的には堅調さを維持すると見込まれる。

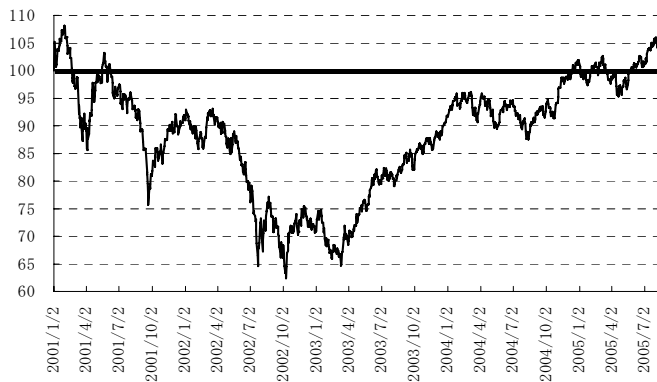
ミシガン大消費者センチメント指数の推移



消費者マインドの動向



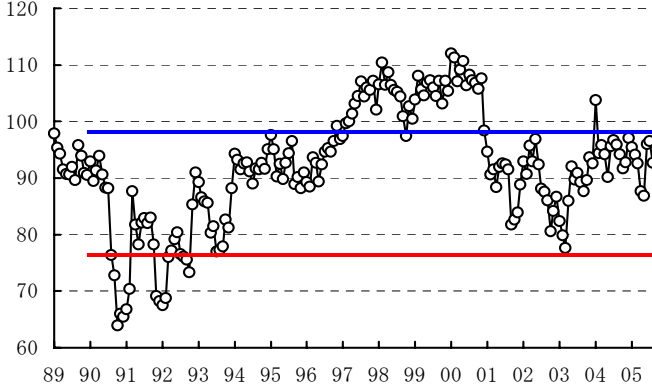
01年1月2日=100 ウィルシャー5000の推移(2001年1月2日～2005年8月11日)



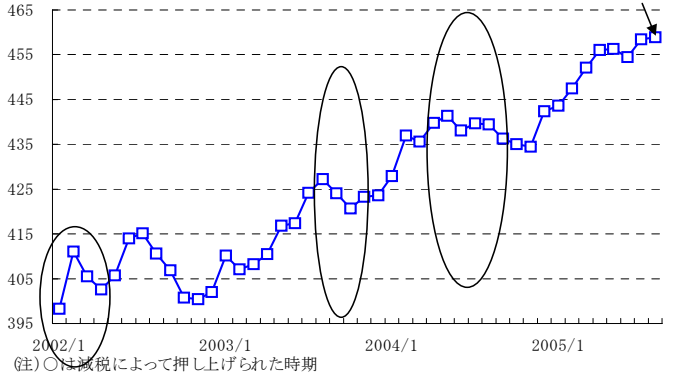
ABC/ワシントンポスト週次消費者信頼感指数構成項目の推移



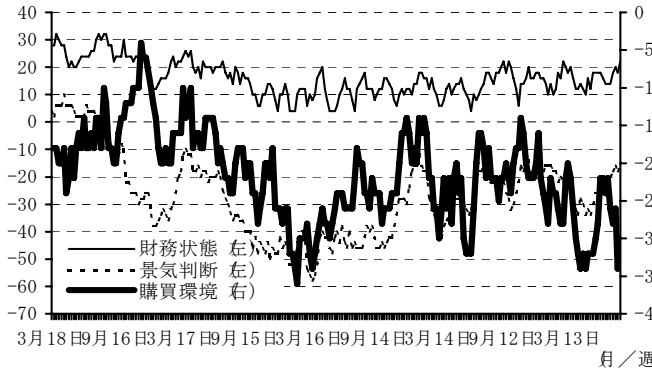
ミシガン大消費者センチメント指数の推移



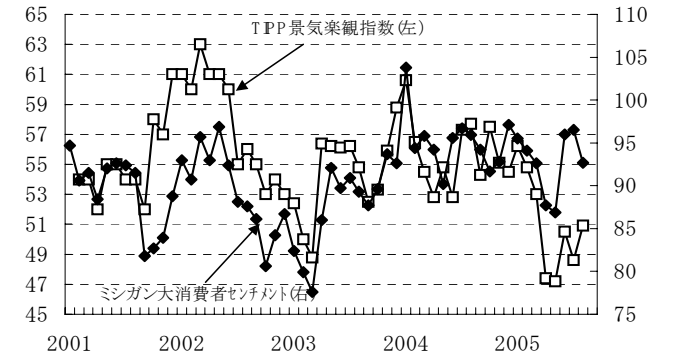
CSC・UBS小売売上高



ABC/ワシントンポスト週次消費者信頼感指数構成項目の推移



消費者マインドの推移



本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。